

(様式3)

農業研究成果情報

No. 752 (平成28年5月) 分類コード 02-10 熊本県農林水産部

ナシとカキの棚栽培における台風15号時の果実落下軽減効果

平成27年8月25日の台風15号襲来時の果実落下は、ナシ「あきづき」では従来の鋼線棚に比べ強化棚で、また、カキ「太秋」では立木栽培に比べ平棚栽培で少なく、果実落下を軽減できる。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室(担当者:平本 恵)

研究のねらい

平成27年8月25日の台風15号(8月25日午前5時に最大瞬間風速22.9m/s、午前6時に30.8m/s、午前7時に30.3m/sを記録した)は、熊本県のナシおよびカキに甚大な被害をもたらした。特に、台風襲来時に未収穫であったナシの「あきづき」、「新高」、また、カキでは、果実の大きい「太秋」での被害が甚大であった。

しかし、被害調査をする中で、「あきづき」では強化棚、また、「太秋」では平棚栽培で被害が小さかったことから、台風時の果実落下軽減効果を明らかにした。

研究成果

1. ナシ「あきづき」は、鋼線棚で71%の果実が落下したのに対し、強化棚は27%と被害が小さい(図1、写真1、2)。
2. カキ「太秋」は、立木栽培で33%の果実が落下したのに対し、平棚栽培は17%と被害が小さい(図2)。

普及上の留意点

1. ナシ「あきづき」の鋼線棚は15年生高接ぎ樹、強化棚は14年生樹であった。カキ「太秋」の立木栽培は23年生高接ぎ樹、平棚栽培は15年生であった。
2. ナシの強化棚は、4×4mおきに鋼管パイプ(直径25.3mm)および支柱が入っており、更に樹と樹の間に防風ネットを張った(写真2)。カキの平棚は、5×2.5mおきに支柱が入っている。
3. ナシは鋼線棚、強化棚ともに園地外周部に防風ネットを張った条件下の結果である。
4. 「太秋」の立木栽培および平棚栽培は、園地外周部に防風ネットを張った条件下の結果である(写真3)。
5. 防風ネットは、ナシとカキどちらも4×4mm目合いのものを使用した。

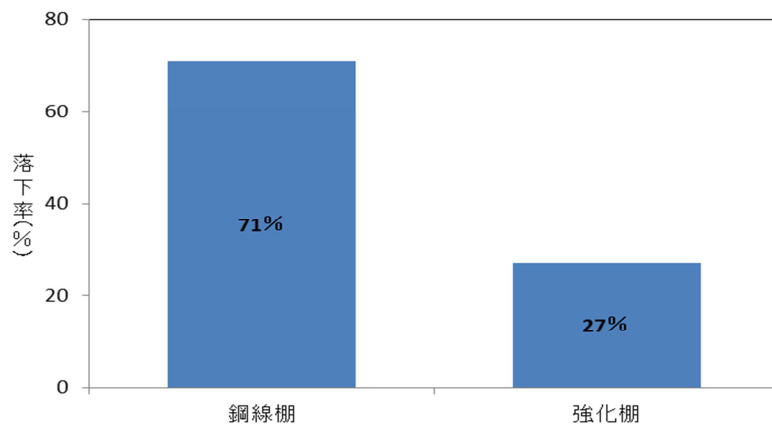


図1 「あきづき」果実の落下率



写真1 「あきづき」鋼線棚での果実落下の様子



写真2 「あきづき」強化棚での果実落下の様子

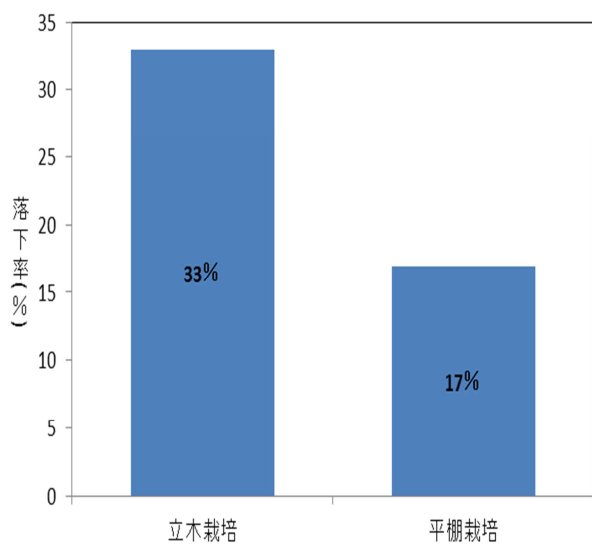


図2 「太秋」果実の落下率



写真3 「太秋」の防風ネット